

答辞

寒さも少しずつ和らぎ始め、春の訪れを感じられるこの良き日に、私たちは無事に卒業の日を迎えることとなりました。本日は校長先生をはじめ、諸先生方、私たち卒業生五十一名のためにこのような厳粛な式を挙行していただき、心よりの感謝申し上げます。また、数多くの方々からのお祝いの言葉をいただき、本当にありがとうございます。

思い起こせば三年前、満開の桜とともに先生方、先輩方の声の大きな校歌に包まれて迎えられた入学式や対面式が、まるで昨日のことのように感じられます。あの日から今日のこの日まで一瞬のよう経過してしまっただけなのに、一言では語りつくせないほどの思い出が詰まっています。

入学式を終えると次は宿泊研修。友達との泊まりが嬉しく、私たちの班は消灯時間を過ぎてもお喋りをしていただけ。「先生が来ないか見てみる」と言った私が扉を開けた瞬間、見回りの先生と鉢合わせ。こっぴどく叱られたことも今となっては懐かしい思い出です。

そんな私たちも二年次になり、かわいい後輩ができました。学校生活や部活動では、後輩にいいところを見せようとリーダーシップを発揮したつもりが、空回り。自分の言動に責任を持たなければと思うようにもなりました。

三年次になると、教室のあちらこちらで進路の話が聞こえるようになります。一、二年次の方は、どこか他人事を感じていた自分の進路選択にも現実味が感じられ、なかなか進路を決めることができず、焦りを感じる日々でした。初めて自分が本当に行きたいと思える進学先を見つけた時は嬉しく、これまでにないやる気が湧いてきました。それからは毎日の勉強に加えて、小論文対策や面接の指導を受けながら受験に備えました。それでも受験日が近づくと不安と緊張が日増しに強くなりました。試験前日には何度もノートを見直し、友達からの応援メッセージを読み返したりしていました。そんな努力に反して、あっさりと届いた不合格通知。私の心はボロボロでした。そんな時、学校では友人や先生方が優しい言葉をかけてくれたり、笑わせようとしてくれたり、傷ついた心を癒してくれました。また、家庭でのねぎらいの言葉と安心感に包まれ、つらい時期を乗り越えることができました。でも、その時期は本当に辛く、「これからどうしよう」「また落ちたら」と不安が募るばかりの毎日だったことを思い出します。その後、やっともらった合格通知。安心して、これからの人にエールを送ることができました。

この三年間、様々な場面でみんなの優しさに触れてきました。この年次の人はみんなすごく優しいです。しかし、それが裏目に出て相手の顔色を伺い、自分の意見を伝えることが苦手な人も多かったです。そんな私たちが、一度だけ自分たちの考えを伝えようと奮闘したことがあります。学校行事で伝統を受け継ぎたい私たちと新しいことを取り入れたい先生方、双方の考えがなかなか合わず、何度も何度も話し合いを重ねました。先生に自分たちの意見や希望を言おうと行動を起したのはあれが初めてだったので、生徒だけで突っ走ったこと、失礼な態度をとってしまったかもしれないと今では反省をしています。あの時は、休みの日にみんなで希望や代案を話し合ったね。いざ先生のもとに行くとき、すごく怖くて緊張したよね。あの時はみんな頑張ったね。自分たちの希望がなかなか思うようにはいかず、だんだん意地になってきているには薄々気づいていました。それでも、自分たちの希望を直接伝え、分かってもらおうとみんなで奮闘したあの時が一番青春だったと思います。

こんな私たちに、時には家族より温かく、また時には友達より親身に私たちに寄り添い、指導や相談に乗ってくれたくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。今日の卒業式も、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため多くの規制がかけられる中、最高の卒業式にしようと尽力してくださいました。その結果、家族が見守るこの場で卒業式が行えることを心から嬉しく思います。ありがとうございます。

じゅうまつだ。

そして在校生の皆さん、人前で大きな声を出すこと、盛り上げるのがあまり得意でない私たちと対照的にあなたたちはいつも元気いっぱいでしたね。学校行事も一緒に盛り上げてくれてありがとう。あなたたちのおかげで本当に楽しい高校生活を送ることができました。

最後に十八年間、愛と温もりを与え続けてくれた家族。時にはひどい態度や言葉で傷つけてしまうこともありました。それでも、次の日にはいつも通りお弁当を準備してくれていて、優しい笑顔で「いつだってしゃい」と言ってくれたこと、忘れません。ありがとう。あなたの子どもで良かった。振り返ってみると十八年間ずっと幸せでした。これから迷惑や心配をかけることが絶えないと思いますが、あなたが誇れる人になれるよう励みますので温かく見守ってくださいね。

三年間、嬉しいうちも楽しいうちも、辛いことも悲しいことも全部この牛深高校で経験しました。私たちの三年間は全部この学校に詰まっています。私の土台、礎を作ってくれた牛深高校は本当に最高です。この学校に来て本当に良かった。牛深に生まれて良かった。三年間ずっと楽しくてあっという間でした。みんな本当にありがとう。出会ってくれて、ありがとう。

いよいよ、お別れの時です。仲間との思い出を胸に残し、この学校で学んだ「敬愛 勤勉 創造」の力をオールに込めて、この牛深という地から未知なる大海へと漕ぎ出します。母校の名に恥じぬよう一生懸命に自分の人生を歩むことを誓います。

最後になりましたが、これまで支えていただいた皆さんに対する感謝の気持ちとともに、牛深高校がこれからも素晴らしい歴史を刻んで行かれますことを祈念しまして送辞といたします。
最高の卒業式をありがとうございました。

令和二年三月一日

熊本県立牛深高等学校

卒業生代表
畑中 美実

